

2011/05/21 (土) 東京外国語大学 本郷サテライト

研究報告

「フィジーにおけるヒンディー文学 ―現状報告―」

東京外国語大学 学部4年

石川まゆみ

フィジーにおけるヒンディー文学の現状を、過去4回にわたって実施した現地調査にもとづいて報告した。

最初に、フィジーの地理、歴史、社会、言語、教育、習慣に関して予備知識として必須と思われる事項を概観した。そのうえで、主要都市における公的機関、各種学校、書店などの現状調査、作家や教師、一般市民、政府機関関係者へのインタビューにもとづき、主な作家、文学作品がどのような状況にあるかを、現地で入手した出版物等の文献資料や写真もまじえて紹介した。特殊な歴史的、文化的背景を持ち移民の子孫であるインド系フィジー人たちが抱える様々な現実と問題は彼らの実生活や精神に影響を及ぼし、それらが現地の文学作品に反映している。しかし現在の彼らの生活のなかで、文学は身近にはなく、本の販売、供給状況は限られたものであり、また時代の移り変わりと共に教育の場では英語を使用することが増え、ヒンディー語を読み書きすることからも離れつつあることで、それが作家たちの執筆、出版活動にも影響を及ぼしている。ヒンディー語による文学の需要と供給、享受はごく限られた人々だけのものとなっている。国内に文学の次代を担う活動的な若手の作家もいないことから、フィジーにおけるヒンディー語文学は消滅の道を進んでいく危惧を抱かざるをえない。フィジーで生まれたがオーストラリアやニュージーランド等に移住し、英語で執筆活動をするインド系の人々もおり、フィジー国内だけではなく国外へ出たこのような作家たちの作品がどのようなものであるか、またどのような視点を向けているか、にも注目してみるべきだろう。さらにフィジー国内でのフィジー語による文学の状況も調査した上でフィジーにおけるヒンディー語文学を対比させ、研究をまとめるべきではないか、とのご意見、ご指導も頂いた。